

推進委員のひと言

『変化を作るのは誰』

愛媛県男女共同参画推進委員 立川 百恵

5月15日就任したフランスのオランド大統領は、公約通り新内閣の閣僚の半数を女性にしました。『エロー首相が束ねる閣僚34名中半数の17名が女性。これは欧州連合27カ国中スウェーデンの54%に次ぐ高さ』と、日本の新聞各紙も写真入りで報道しました。「ほー」とため息交じりに読んだ読者も多かったのではないのでしょうか。続いて6月に行われた総選挙では過去最高の155人の女性議員(26.9%)が誕生し、注目されています。

翻って、3.11以降の日本は、大震災で被災した人たちの避難所で女性たちの活躍が目立ちました。避難所の自主運営のリーダーが女性だったところは、民主的な運営できめ細かな意見が取り入れられ、過ごし易いと評価されました。その後の東北地方で、自治体の首長や議員に女性が多少でも増えているように見受けられます。しかし、我が県内で自治会の会長やPTA会長、公民館の世話役などに変化はなさそうです。

国は今年度『経済再生に女性活用』を謳い、厚労省に推進チームを作りました。国際社会からの指摘や経済に役立つとなると動きは速くなりますが、主体である女性たちはどう考えているのでしょうか。身近な自治会では「仕事と家事育児を受け持ちそのうえ地域の世話役まで引き受けられない」と云うのが女性たちの言い分です。正直、受け手がないということが変化を作れない最大の理由のようです。国では、経済再生のためという大義のもとに今回、女性の活躍を促す具体的施策を取りまとめました。こうした条件が整えば女性たちは力を発揮することになるのでしょうか。

最近感ずるのは、主体の力があらゆる面で弱まっているのではないかという懸念です。自分たちで作りだす可能性がみられる社会では市民は元気になり、能力を最大限発揮します。しかし、長期にわたり主体がないがしろにされる環境が続くと、人はあきらめの境地に入り身を守ることしか考えなくなります。変化を作ることに寛大になり、主体が躍動する社会はどうすれば実現できるのでしょうか。

いずれにしても、男女共同参画は国の現状を変える最重要課題とされながら、停滞したままです。この状況をどこからでも打ち崩していかなくてはなりません。気づいているすべての人たちが力の及ぶ範囲で気長く知恵と力を出し続ける以外ないでしょう。

『副会長雑感』

愛媛県男女共同参画推進委員 宇都宮 眞由美

この4月から、心ならずも日本弁護士連合会（日弁連）の副会長をさせていただくことになり、毎週4泊か5泊は東京で過ごさなければならない。松山の事務所は、開店休業の状況で、いろいろな方にご迷惑をかけている。男女共同参画推進委員会の方々にも、日程のことやら、この原稿のことやらでずいぶんにご迷惑をおかけすることになってしまい、本当に申し訳なく思っている。

日弁連の副会長になって驚いたことは、まず、その活動がとても政治的であるということである。副会長になるまでは、それぞれの委員会（日弁連には100を超える委員会がある。）から出される意見書を確認し、その上で日弁連の意見として公表したり、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士をいう。）で司法に関する問題点などを検討するのであると考えていた。あるいは又、日弁連として行うべき人権擁護活動などを積極的に行ない、広く国民の皆様にご迷惑をおかけするのではなく、広報活動を行うのであろうと思っていた。しかし、そうではなかった。日弁連が目指す人権擁護や正義の実現のための法や制度を作るために、あるいは弁護士の活動をやりやすくするために、積極的に政治家にも働きかけている。政治家との朝食会、議員要請あるいはロビー活動など結構盛んである。特に、最近では弁護士人口が急激に増加したということもあり、弁護士像も大きく変わりつつあるので、これまで以上に政治的活動が増えているのではないかと思っているが、慣れないことゆえ戸惑うことが多い。

次には、驚いたというより、戸惑ったという方がよいかもしれないが、就任早々私の担当する委員会の出した意見書が、別の委員会の反対によって日弁連の意見として採用されなかったことがあった。当然といえば当然のことなのであるが、最初であったので少なからずショックを受けた。しかし、価値観が多様化しているこれからの時代にあって、このような場面はしばしば生じるはずである。このようなとき日弁連は意見が言えないのかと考えると、戸惑いを感じざるを得なかった。もちろん日弁連には多くの会員がいるのであり、これまでも常に会員全員の意見が一致してきたわけではない。しかし、それでも法的に何が正しいかという点においては、多くの会員の意見が一致してきたし、少数意見は存在しても二つの意見が拮抗するようなことはあまりなかったような気がする。これからは、そのような場面が増えそうである。このような場合に意見が言えないとすれば、これは困ったことではないのだろうか。日弁連として意見を求められる場面はますます増えるであろうに……。

このように、戸惑いながらの日々を過ごしている今日この頃であるが、後で振り返ったとき有意義であったと思えるように1年間努力したいと思う。

『8時半の攻防』

愛媛県男女共同参画推進委員

丸山 征 寿

「寝る子は育つ」と言いまして、子どもが小さいうちは、十分な睡眠を取らせることが大事です。一日最低9時間は睡眠時間を確保すべきだという話も聞きます。それには、子どもの睡眠時間を確保すべく日々の生活習慣を整えなければいけません。

子ども達が通っている小学校の集団登校の集合時間が早い(朝7時5分頃)ので、毎朝子ども達は6時過ぎに起きます。9時間の睡眠時間を確保しようとする、遅くとも夜9時には眠りについておく必要がある、8時半位にはベッドに入っておくべきだ、8時半にベッドに入るなら、8時過ぎには入浴を済ませておいた方がいい、ということになります。

基本、そういう流れで生活しているのですが、それで8時過ぎに入浴を終えて、リビングでテレビのスイッチを入れると、今の時期(この原稿を書いているのは7月初旬)に放送しているのが、野球中継だったりするわけです。

8時過ぎというと、イニングは6～7回、終盤にさしかかってこれから面白くなるところです。特に去年今年のように点が入らない展開が多いとなおさらです。巨人の杉内のノーヒットノーランも、風呂から出てテレビを見ると、完全試合まで後3人、という場面でした。

それで、8時半までに試合が終われば問題はないのですが、なかなかそういう試合は少なく、試合終了が9時前後になる試合がほとんどです。

子ども達の野球好きは相変わらずで、去年よりさらに輪をかけたような状態なので、8時半を過ぎても、試合が終わらないうちにテレビを消すなんてことは頭に一切ありません。

子どもがテレビ見たさに寝る時間が遅くなる、というのは定番でして、私にも経験があります。しかし、だからといって、子どもに好きにさせるといふわけにはいきません。「自分のことは棚に上げる」は親業の基本です。

すると、8時半を過ぎて試合が終わらないと、「もう寝るよ。テレビ消しなさい」「えー、こんないいところでやめられない」という攻防が始まるわけです。

「だったら最初からテレビ見せなきゃいいじゃないか」との意見もあるでしょうが、野球にはまっている子ども達を毎日見ている、そこまで制限するのはかわいそうかな、と思ってしまうわけですし、そこが甘いんだ、と言われればその通りなのかも知れませんが。

その昔巨人に「8時半の男」と言われたりリリーフエースがいたなあ、ということも思い出したりしながら、毎日「8時半の攻防」を繰り返しています。